

特集

帰ってきたスポーツの夏！ 東医体・西医体の夏！！

後藤 礼司

愛知医科大学循環器内科 講師



●写真 「点取り屋」として活躍。右が後藤氏。

気分はもうスラムダンク

①藤田保健衛生大学(現・藤田医科大学)・バスケットボール部

②バスケットボールを小学校6年生から始めた私はその面白さに魅了され、もちろん大学に入学した後も心はバスケット部一本でした。私が幸運だったのは良い先輩たちに指導を受け、仕事が「点取り屋」となったこと。大学入学直後の5月～6年生の12月末の大会までスターティングメンバーとして試合に出続け、特に高学年時の平均得点は40点を超えていました。

スポーツをする医学生にとっての夏の祭典は東医体・西医体です。『スラムダンク』をご存じの方がいれば理解が容易だと思いますが、私が大学5年の夏、「湘北対山王」は起こりました。相手はインターハイ経験者、国体経験者に加えイケメン揃いで占められたドリームチーム。2回戦での対戦が決まりました。大会1か月前のトーナメント発表はわれわれのチーム全員の顔を青くさせました。しかし、われわれは「湘北」でした。徹底分析し、各選手の特徴を詳細に把握。チーム戦術を緻密に組み立てました。そしてその時覚えた、「ディープスリー」と言われるスリーポイントラインよりも2mほど後ろからのスリーポイントシュートが私の武器に。本大会では会場の観客の予想を裏切り見事にUpset(番狂わせ)を達成！2点差のゲームでしたが決勝点がそのスリーポイントシュートとなったのです。今でもシュート時の手の感覚を鮮明に覚えています。ただし、その後は燃え尽きるところまで「湘北」そっくりであったことは付け加えておきましょう……。

③卒業後、医師になっても私の隣にはいつも大好きなバスケがありました。社会人チームでのプレーと、母校でのコーチングを続けていた私にある日、JBL(現在のBリーグの前身)2部に所属していたアイシンAWアレイオンズ安城(2022年で活動終了)から

プレイングドクターとしてのオファーが。当然周りの反応はNo、できるわけがないと。でも私はそれに反しYes。

循環器内科医としての仕事をしながらのスター選手たちとのトレーニングや練習は過酷を極めました。朝から病院へ行き仕事、夜や土日のワークアウトは直営や日直業務がない限り参加し、追加で自主トレ。その後はまた病院に戻るとい生活でした。緊急カテテルで体育館から練習着で病院に戻った時もありました。ある日チームメイトは私にこう言いました。「ドクターは普通に仕事してたら十分じゃないですか、しかも忙しいし……。それに加えてなんでわざわざつらい練習までするんですか?」と。冷やかし程度だと思っていた選手もいたようです。しかし私の回答は「コートに立つからにはコート上で結果を出さなきゃいけないのは当たり前、だから努力は最大限するよ」と。才能も能力もある選手たちとプレーを共にするには人一倍努力して当たり前だとチャレンジ前から考えていました。そして得点するのが難しいと面食らったのもこのカテゴリーでした。今まで私が「井の中の蛙」にならずにここまで来られたのも、そして全ての人に感謝しつつチームに何か一つでも、の気持ちはこの時培われました。そして今でもチームメイトは私の大事な友人です。

現在、循環器内科医として大学病院に勤務する傍らBリーグのチームドクターを複数担当しています。そして2021年にはB3リーグ優勝をこの母なるチーム(アイシンAWアレイオンズ安城)でドクターとして経験しました。かけがえのない経験と大好きなバスケは今も私の隣にいます。

④学生時代の部活動が私の人生を大きく変えました。「医学生だから〇△は無理」という固定観念は私にはありません。コロナ禍では医学生の皆さんも本当にいろいろな制約を受けたことでしょう。感染には気を付けながら東医体・西医体を思いきり楽しんでください！そして私自身、さまざまなジャンルでの二刀流医師の登場を心待ちにしています。

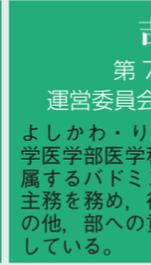
東医体・西医体のバトンをつなぐ！

伝統として4年生が運営委員を務める東医体と西医体。しかし、今年度の運営委員は入学してから一度も大会を経験することなく運営を担っているため、例年以上に多くの困難に直面している。大会開催に向けた苦労と取り組み、大会成功への意気込みを聞いた。



山本 一皓氏

第66回東医体 運営本部運営本部長 やまもと・かずひろ氏/順天堂大学医学部医学科4年生。所属するヨット部では主将を務め、アットホームな雰囲気的大事にして東医体での好成績をめざす。



吉川 凛氏

第75回西医体 運営委員会後期委員長 よしかわ・りん氏/大阪大学医学部医学科4年生。所属するバドミントン部では主務を務め、後輩への指導の他、部への貢献を大事にしている。

吉川 西医体は2020年から3年連続で全面中止となっていて、今回が4年ぶりの開催となります。

山本 東医体も2020年から開催を取りやめてきました。昨年是一部の競技で再開したものの、夏の大会を実施したのは全23競技のうち6競技で、そのうち決勝戦まで行われたのはわずか3競技のみでした。東医体も西医体も、今年は4年ぶりの全面開催となるわけですね。

吉川 しかも私は2020年度入学なので、一度も西医体を経験したことはありません。他の運営委員会のメンバーも同様です。「参加経験のない大会を自ら運営する」という、前代未聞なことをやっています(笑)。

山本 私も2020年度入学の「コロナ直撃世代」です。順大の伝統として医学部1年次は寮生活となるはずでしたが、これも中止になりました。でも入学時に「君たちの世代が主幹になって4年後は東医体をやるよ」と言われたことは覚えていて、運営委員長打診があった時は二つ返事で引き受けました。実際やってみると、なかなか大変ですが(笑)。

吉川 お互いに運営の苦労はありますよね。

山本 代々の先輩方の引き継ぎ資料があるおかげで、なんとか準備が進んでいるといったところでしょうか。

吉川 西医体は今年春頃から大会開催に向けての準備が本格化しました。最近は大大会エントリーや宿泊予約等の業務に追われています。運営委員会のメンバーも部活動に参加しているため、部活動と大会運営業務を両立しています。他の運営委員が、部活動で日に日に肌が黒くなるのを見てると、大会が近づいていることを実感します。

山本 東医体の運営委員も、今が一番忙しい時期ですね。部活動と大会運営業務、それにCBTとOSCEの対策にもそろそろ本腰を入れていかないとまずいです！

吉川 学業もおろそかにできないですね！

大会にかかわる全ての思いを胸に

吉川 今の時期、医学部長や教育センター長、教務の方をはじめ先生方や卒業生の方から、西医体開催への期待を感じることが増えてきました。

山本 順大も今年が大会運営の主管ということで、東医体の理事を務める先生には特にお世話になっています。その他、事務の方やOB/OGの先輩方からの関心が高いです。運営本部長を務めていることで、学内でもいろんな人に会うたびに「頑張ってるね」と声をかけてもらえます。

吉川 理事を務める先生の熱意はすごいですよね。阪大の先生は、理事会の中で最も長く理事を務めていることもあり、西医体に対して熱い思いを持たれています。他の先生方もご自身の医学生時代の思い出と重ねて、大会運営を温かく見守ってくださっています。

山本 本当に多くの方々に支えられているということ、大会運営を通して感じています。皆さんの期待に応えられる良い大会にしたいですね。

吉川 今年の西医体はこの3年間中止になってきた先輩方の思いと、これまで大会をつないできてくださった先輩方の思い、全てが詰まっている大会だと思っています。運営委員一同、入学してから一度も開催されていない西医体を運営するというに不安はありますが、参加される全競技の参加者が切磋琢磨し、交流を広げられる医学生としての一大イベントを提供できるよう頑張ります。

山本 私たち東医体運営本部も、共同で主管を担っている日大、埼玉医大、群馬大の委員の皆さんと共に、これまでの先代の人たちからのバトンを受け継ぎ、このバトンを次の世代へ良い形でつなぐためにも大会の成功に向けて頑張っていきます。(了)

- こんなことを聞いてみました
①出身大学・部活動
②医科学生総合体育大会の思い出
③部活動を通じた出会いや学び
④医学生へのメッセージ

医学書院IDの登録はお済みですか? 最新の医学界新聞がメルマガで届きます 医学書院ID 登録

DSM-5-TR™ 精神疾患の診断・統計マニュアル American Psychiatric Association 日本精神神経学会

精神疾患の国際的な診断基準、9年ぶりのアップデート！ 米国精神医学会(APA)の精神疾患の診断分類、第5版のText Revision。DSM-5が発表された2013年以来9年ぶりに内容をアップデート。日本精神神経学会による疾患名の訳語も大幅にリニューアルとなり、全編新たな内容としてリリースする。